

女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～

黒松内町立黒松内小学校 北川教頭

(前 今金町立種川小学校教頭)



Q お伝えしたいメッセージをお願いします！

「学級担任はとても素晴らしい仕事で、やりがいのある仕事だと思います。その経験を生かして、広い視野で仕事をする管理職になることを、チャンスや権利として捉えて欲しい」と伝えたいですし、管理職を含めた働き方改革が、今後どこまで進むかわかりませんが、魅力ある管理職の姿を、いっしょに作って欲しいと思います。

Q 管理職を志した理由やきっかけは？

40代後半、子どもも大きくなり、その後のライフスタイルを考えた時、いくつかの道があると思いましたが、「女性管理職が少ないのは、何でなんだろう？」という疑問から始まり「管理職選考を受検できる権利があるのであれば、管理職を目指してみようかな」と思い意志を決めました。

それまで周囲からの管理職へのお誘いをかたくなに拒否してきましたが、教務主任などを経験し学校現場を広く見始めてから、学校を動かす面白さをわかってきたことも、きっかけに繋がったと思います。

Q 管理職になるために必要だった支援は？

管理職になるということは、家族と別居になることが十分考えられるので、家族全員が健康でなければなりません。私も夫も二人の子どもも健康で、家族の理解を得られたことが大きかったと思います。

当時の校長先生には「頑張りなさい」と励まされ、支援してくださいました。

また、私が初任の時に初任者担当教諭をされ関わりがある女性の校長先生からは、管理職を目指すにあたり様々な助言をいただきました。「あのような管理職になればいいな」という気持ちがあり、ロールモデルの様な存在です。

Q 管理職になって気づいたことは？

管理職になって気づいたことは、学校は多くの人に支えられ、教育活動が行われていることです。管理職は「間に入る仕事」なので大変だなと思うこともありますが、そこを疎かにすると、いろんなところでやりにくさが生じますので、大事な仕事と思っています。

Q 管理職のやりがいや魅力は？

管理職のやりがいや魅力は、担任と子どもたちが、笑顔で授業をしているのを見る時、職場の人間関係が和やかで、チームワークを感じた時、保護者や地域の方々が、子どもたちや先生方を応援したり、成長を認めてくれた時に感じますね。

Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

私も子育てしながら教員をしましたが、心身共に健康第一でなければ、子育てもできないし、子どもも健康には育たないので、できるだけ早く退勤する習慣を身につけて欲しいですし、休日にリラックスする時間とか、充実する時間を保証するようなスケジュールを、こちらで立てていきたいと思っています。

Q ご自身が子育てをしているときに支えとなった管理職のサポートは？

子育てをしている時に、子どもが熱を出したり、保育所から急に呼び出されたりした時は、子どもの体調不良を心配して声をかけてくれるとか、「休んでいいよ、休みなさいって」という言葉がけがあり、理解のある管理職の方々にも助けられたなと思います。

次ページからインタビューの全文を掲載しております！
是非御覧ください！

1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

40代後半、子どももある程度大きくなり、その後のライフスタイルを考えた時、「小学校教員はやり尽くした。初任校が中学校なので、もう一度中学校教員に戻る。高校の教員免許を所有しているので、高校で専門性を高める。あとは管理職」と、いくつかの道があると思いましたが、「女性管理職が少ない、教頭受検者が少ないのは何でなんだろう?」という疑問から始まり「管理職選考を受検できる権利があるのであれば、管理職を目指してみようかな」と思い、意志を決めて、当時の管理職に相談をしました。

教員の時は、特に小学校では男女関係なく仕事ことができましたので、「何で管理職はそうではないのかな?」という思いもありました。

既に「管理職を目指さないか?」と周囲からお声をかけていただき、拒否していましたが、教務主任などを経験し学校現場を広く見始めてから、学校を動かす面白さをわかってきたことも、きっかけに繋がったと思います。

2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか?

管理職になるということは、家族と別居になることが十分考えられるので、家族全員が健康でなければなりません。私も夫も健康で仕事をしてましたし、二人の子ども(大学生と中学生)も健康に生活してました。家族の理解を得られたことが1番大きかったと思います。

当時の校長先生には「頑張りなさい」と励まされ、支援していただきました。

また、同じ町内に女性の校長先生がいて、私が初任の時に初任者担当教諭をされ関わりがありましたので、機会ある毎に声をかけてくださったり、管理職を目指すにあたり様々な助言をいただきました。

はっきり話をされる方だったんですけど「校長先生のような管理職になればいいな」という気持ちがありました。ロールモデルの様な存在です。

3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか?

学校は多くの人に支えられ、教育活動が行われていることがわかりました。

人や物やお金。これらが全て関連して、子どもたちの教育に生かされているということや、特に人に関しては、一番重要な要素を占めると思います。

教育委員会とのやり取り、他校の校長先生、教頭先生との相談などを含めて考えると、自分の学校だけを見ていた担任の時よりは、いろんな関わりで支えられていることを感じました。

管理職は「間に入る仕事」なので大変だなと思うこともありますが、そこを疎かにすると、いろんなところにやりにくさが生じますので、大事な仕事と思っています。

4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。

まず、担任と子どもたちが、笑顔で授業をしているのを見る時です。

授業中、子どもたちに笑顔が出るということは、楽しかったり、わかったり、もっと勉強をしたいと思う時。

授業力の向上が求められますが、そのためには研修の機会が必要で、研修の手続きとか、外部人材とのやり取りがないとできません。

先生方の健康状態や働き方改革も含めて、様々なことが絡まってくることを考えると、それを支える日常の仕事にやりがいを感じますし、頑張ろうと思います。

(次ページへつづく)

4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。(前ページからつづき)

次に、職場の人間関係が和やかで、チームワークを感じた時です。

本校は小規模校なので職員は少ないですが、子どもたちの教育活動にとっても理解があるので、新型コロナウイルスの対応などで大変な時も、前向きに取り組んでいただき、とても感謝する毎日です。

チームワークを築くために、職場のコミュニケーションを大切にしています。

職員が私に声をかけてくる時は、パソコン操作の手を止めて「お話を聞きますよ」という態度で接するようにし、職員に声かけする時は、相手の状況を見て言葉を選ぶようにしています。

そして、保護者や地域の方々が、子どもたちや先生方を応援したり、成長を認めてくれた時です。

例えば授業参観日。保護者が授業の様子や、子どもたちの様子を笑顔で見て、「今日来てよかった！」とか「学校で頑張っているんだ！」と褒めていただけるといいですね。

5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。

学級担任はとても素晴らしい仕事で、やりがいのある仕事だと思います。

その経験を生かして、広い視野で仕事をする管理職になることを、チャンスや権利として捉えて欲しいと思います。

壁があるわけではありませんが、先生方には「教頭は大変だ」というイメージがまだありますので、管理職を含めた働き方改革が進むことを願い実践し、魅力ある管理職の姿を、いっしょに作って欲しいと思います。

6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気をつけていますか？

心身共に健康第一でなければ、子育てもできないし、子どもも健康には育たない。

次の日にできそうな仕事は後回しにして、早く退勤するようにする。

そういう習慣を身につけて欲しいのがひとつ。

それから休日にリラックスする時間とか、充実する時間を保証するようなスケジュールを、こちらで立てていきたいと思っています。

昔から先生方は、土日も自分の都合で仕事に出てきたりしてましたが、やはり休む時は休む、時には趣味で休暇を取ったりしないと、長くは続けられない仕事ではないかと思っています。

7・ご自身が子育てをしている時に、管理職の、どのようなサポートが支えになりましたか？

子どもが熱を出したり、保育所から急に呼び出されたりした時は、(夫も教員なので)

「夫婦でどちらが休むのか？」という話になりますが、子どもの体調不良を心配して声をかけてくれるとか、

「休んでいいよ、休みなさいって」という言葉がけがあり、理解のある管理職の方々に助けられたなと思います。

自分の子どもの入学式、卒業式に出席できないことが結構あって、今思うと「後悔先に立たず」ではありませんが、「あの時、休めばよかったな」と思いますので、職員のお子さんの入学式や卒業式については、「学校はどうかなるから、休みなさい」と言ってあげたいなと思っています。

8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか？

人材育成の視点や、教員を目指す若者や学生が少ないこと、管理職を目指す教員が少ない現状から、学校の働き方改革を進める必要があります。

学校単位の取組だけでは難しい部分があり、地域の理解や協力を得たり、管内全体で共通の取組を進めるなど、もう一工夫しなければ、教員を目指す人や管理職を目指す人が増えないのではないかと考えています。

[インタビュー実施月:令和4年3月]

インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。